



鹿博だより

No.103



大隅石（オオスマライト）標本（鹿児島県立博物館所蔵）

世界では5,000種を超える鉱物が確認されていますが、そのうち130種あまりが日本で発見されています。そのうち「大隅石」は7番目に認定された新鉱物で、大隅半島の垂水市早崎（咲花平）で発見されたことから「大隅石（Osumilite）」の名前が付けられました。「大隅石」を含む流紋岩が始良カルデラの外輪山の北側と南側の縁に分布することから、始良カルデラの巨大噴火のメカニズムを解明するために重要で、貴重な文化財です。

（県指定天然記念物 令和3年4月23日指定）

ピンチのあとに…「元氣の出る博物館」を目指して

館長 鈴木 敏之

新しい「令和」の時代が始まったのも束の間、新型コロナウイルス感染症は日本だけでなく世界的規模で猛威を振いました。感染症拡大の影響を受けて、私たちの社会生活は様々な制限・制約の中で活動せざるを得なくなり、今なおウイルス変異株との一進一退のせめぎ合いが続いています。

当館でも国の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による臨時休館やイベント等の中止、規模縮小による開催に加え、さらに令和3年度は約2か月間、本館の外壁補修工事による臨時休館も重なり、入館・利用者も減少するなど、企画運営も少なからず影響を受けました。また、当館職員も資料収集をしたくてもできない、企画展を思う存分やりたいくてもできない不自由さやジレンマを感じながらこの間、業務を行ってきたところです。博物館にとってもここ1、2年はこれまでに経験したことのない、まさにピンチの連続…。

ただ、臨時休館等があったこの期間、ただ指をくわえて時間だけが過ぎるのを待っていたわけではありません。この時期だからこそできることを考えて、職員が一丸となって取り組んできたのも事実です。例えば、臨時休館時には、再開後の「科学教室」、「天文教室」、「楽

しい実験」を見越して、使用する教材・教具や提示資料等の見直し、改善をはじめ、来館者の目線に立った常設展示物の補修や追加を行いました。また、当館が収蔵している植物標本のスキャンニングによるデジタル化などにも、職員で協力して計画的に取り組みました。

開催が一時中断された企画展「くんくんかずんでん〜におい図鑑」では、自然界のにおいのしくみや保存に関する先人の知恵等を理解してもらうために、感染症対策を徹底した上で、あえて五感をフルに活用した展示のしかけに挑戦し、多くの来館者に体験、共感していただきました。

さらに本館休館の間、別館（宝山ホール4階）では、展示物を整理・統合し、多目的に使用できるスペースを生み出して、奄美大島、徳之島及び沖縄の貴重な自然を紹介する写真展や海上保安庁と連携した海図パネル展、桜島大正噴火写真展等を開催したりする試みを行いました。

コロナ禍での今の状況は、まだまだ続きそうですが、ピンチのあとをチャンスにかえて、さらに皆様にとって「元氣の出る博物館」を目指して、当館の限りなき「挑戦」は続きます。

資料収集・保管事業

ス

博物館の業務に「資料収集・保管事業」があり、主に県内産標本を中心に収集しています。収集した標本は、鹿児島県の自然の記録として様々な研究等に活用されています。

令和3年8月～10月の期間、本館外壁補修工事のため、本館は臨時休館をしていました。その間、普段主に接客務等を行っている職員を中心に、植物標本のデジタル化作業を行いました。

休館中の3カ月で、およそ7,000点の標本を

キャンシ、デジタル画像として整理しました。これにより、実物に触れなくても、標本を閲覧できるようになり、標本の劣化や破損リスクを低下させることができます。また、標本を確認する労力が飛躍的に少なくなりますので、より一層、活用しやすくなります。

今後はインターネット上での公開作業も進め、県外の研究者にも積極的に利用していただけるようにしていきたいと思えます。



デジタル化作業中の職員



植物標本のデジタル画像

令和3年度に開催した企画展

県立博物館では、収蔵資料や調査研究の成果や児童生徒の研究記録等を活用して様々な企画展示を行っています。

令和3年度は、企画展「変な標本」（12月19日～5月5日）、「写真展「奄美・沖縄の希少な生き物」（5月8日～6月20日）、「くんくんかずんでん～におい図鑑～」(7月10日～11月28日)、「石の名は？」(12月25日～5月5日)を開催しました。

また、夏休みの児童生徒の研究を応援する企画展である「チャレンジ理科研究」（6月26日～8月29日）を実施し、自由研究のヒントを提供したり、「理科に関する研究記録」（10月1日～10月8日）で入賞作品の紹介をしたりすることができました。

次年度も魅力ある展示会の企画や開催を通じて、県内外の方々に鹿児島島の自然や身近な科学に楽しく触れられる機会づくりを行っていきます。



企画展「くんくんかずんでん」展示風景



企画展「石の名は？」ミュージアムトーク

<学ぼう郷土の自然 移動博物館事業>

県立博物館では、郷土の自然を見つめ、科学する心や自然と共生する心を培うために、「移動博物館事業」を行っています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止策を入念に行いながら、11月4日～7日に薩摩川内市甕島、12月14日～16日に武岡台養護学校にて開催しました。

【甕島】

休校中の上甕中学校の体育館を会場に、シカヤイノシシなど身近な鳥獣や世界の昆虫など5,000点を超える標本や剥製を展示しました。



甕島移動博の開場式

島内の小中学校から児童生徒の観覧があったり休日を利用した家族連れの来場があったりして、期間中、延べ1,458人もの利用者で賑わいました。会場ではご覧になった方からの質問に職員がお答えしたり、液体窒素を用いて凍ったバラの花びらが、ぱりぱりと音を立てて砕ける様子に子供たちの歓声が上がったりしました。

また土、日曜日は、里中学校の生徒の皆さんに工作体験コーナー等でボランティア活動をしていただき、職員、島民相互の触れ合いの時間も設けることができました。

「甕島の自然は素晴らしいと再認識した。」「まだ見たことのない植物や昆虫に出会えてよかった。」

「実験や工作が楽しかった。」「来年も開催してください。」など、ありがたい声もいただきました。今後も地域の自然に目を向けて、その豊かさに気づいていただける事業を推進していきたいです。



里中学校の生徒（ボランティア）による解説

【武岡台養護学校】

体育館を会場に、剥製や標本など、約900点を展示し、400人を超える児童生徒、教職員のご来場をいただきました。



展示会場

会場では、博物館で飼育しているヘビや世界最大とも言われるマダガスカルゴキブリにやさしく触れるコーナーやどんぐりの転がる音や動きが面白く種子発芽の仕組みがわかる装置も設置しました。皆さん、思い思いに会場の展示や体験を楽しみながら、鹿児島県の自然や博物館を身近に感じてくださったようでした。



どんぐりコロコロ装置

ディスカバリールーム再開



これは、本館2階にあるディスカバリールームの様子です。平成9年に完成してから現在まで一貫して、「触る。見る。聞く。匂いをかぐ。」などの五感をとおして自然に親しんでもらえる展示室になっています。例えば、ホッキョクグマの剥製に触れたり、オナモミの果実で的当てをしたり、また、石琴を鳴らしたり、様々な野鳥の鳴き声を聞き比べたりなど、子ども達が遊びながら興味や関心をもってもらえるように工夫された、多種多様な展示物があります。このようなハンズオン展示は、現在では全国各地の博物館で見られますが、開設当時としては先進的な取組だったのではないのでしょうか。

残念なことに、来館者に好評だったこの展示室も新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、令和3年2月28日から長く閉鎖せざるを得ませんでした。途中わずかに展示した時期もありましたが、本格的に展示を再開できたのは、2年も経った令和4年3月8日のことです。定期的な室内の消毒作業や、入・退室時に手指の消毒をお願いするなど、感染症予防を行った上で、ようやく再開することができました。

子ども達の歓声が聞こえてくる展示室に戻って、元の賑やかさを取り戻したディスカバリールームを訪れて、親子で楽しんで見ませんか。子どもだけではなく大人にとっても、様々な楽しみや新たな発見があることでしょう。

学芸室の窓から

令和3年12月25日より令和4年2月20日まで、身近な石材を取り上げた企画展「石の名は？」を開催しました。鹿児島では多様な溶結凝灰岩が建材や石塔などに使われており、街なかでも簡単に見分けることができることを解説したほか、花こう岩や大理石、シラスを活用した新素材なども取り上げ、岩石が私たちの生活と密着していることを写真や標本で紹介しました。しかし、岩石を主題とする企画展はどうしても地味なイメージがあるため、なかなか来場者数が伸びない傾向にありました。そこで職員で様々な知恵を絞りました。まずはキャッチーなタイトルにしたいと考え、アニメ映画「君の名は。」をモチーフにさせていただきました。そのほか、展示の各項目のタイトルも劇中のセリフをもじったり、展示室ではBGMとして劇中歌を流すなど、あらゆるところに「君の名は。」テイストをちりばめました。劇中では隕石が落下するシーンもありますが、鹿児島でも明治時代に伊佐市付近に隕石が落下した記録もあり、来場者も興味深く見ていらっしやいました。感想ノートにも、タイトルで興味を持って来場したという書き込みもあり、多少なりとも目的を達したと感じたところです。余談ですが、当初はチラシのデザインも映画ポスターによく似せたものにしていましたが、諸事情により使用できなかったのは残念でした。

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館
〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号
TEL 099-223-6050 FAX 099-223-6080

ホームページ <https://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>

